



アカ

さあ、今日みんなと来たのは、「朝日遺跡」というところだ！ たくさんの人が、なにをしているよ。
これは「発掘調査（はくつちょうさ）」といって、地面の下にうまってしまった大昔の人々の生活の跡（あと）をしらべているところだ。
朝日遺跡は、いまから2000年以上も前、人々が集まって住んでいたところなんだ。
日本の歴史では「弥生（やよい）時代」とよばれているところだね。



おや、地面がまるくへこんでいるけど、なにかな？ これは「竪穴式住居（たてあなしきじゅうきょ）」といって、弥生時代の人たちが生活していた家のあとなんだ。小さな穴は柱をたてたあとだよ。今は穴しか残っていないけど、本当は写真のようにわらの屋根がついていたんだ。朝日遺跡ではこうした家がたくさんみつかっていて、たぶん1000人くらいの人々が住んでいたんだらうっていわれているよ。



クロ



アカ

たくさんの人がいたんだから、その人たちが死んだあとにうめられたお墓もたくさんみつかるよ。
なかには2000年前の「がい骨」が残っていたこともあるんだ。ちょっと怖いような気もするけど、骨をしらべることで、弥生人の身長や体つき、どんな生活をしていたかわかるんだ。



こんどは遺跡を空からみてみよう。朝日遺跡が大きな平野（へいや）のなかにあることがわかる。遺跡のまん中に大きな谷があって、この谷をはさんで北と南に人が生活する場所があったんだ。その東と西にはたくさんのお墓がつくられていたことがわかってきた。

遺跡の広さは、なんと、80万平方メートルもあって、あのナゴヤドームが16個から17個も入ってしまう大きさだ。朝日遺跡は、日本でみつかる弥生時代の遺跡のなかでも、もっとも大きな遺跡のひとつなんだ。



クロ